

03

起立性低血圧の症状

起立性低血圧によって起きる症状は、立ちくらみやふらつき、めまい、呼吸困難感、気分不快感、吐き気、頭痛、全身倦怠感、失神、転倒などがあります。

このうち、臨床的には立ちくらみやめまい、気分不快感の症状が多くみられます。

失神（意識消失）から転倒につながる場合がありますので、血圧の値だけでなく、症状を注意深く観察しましょう。



立ちくらみ・失神



吐き気・頭痛



呼吸困難感



臨床のコツ

平均血圧 65mmHg 以下も要注意！

平均血圧は、重要臓器への血流を反映しています。65mmHg 以下の場合は、起立性低血圧の発生に注意しましょう。



質問です！

臨床では、すぐに平均血圧の計算ができません。平均血圧低下の簡単な計算はありますか？

平均血圧の計算式は、

$$\text{平均血圧} = (\text{収縮期血圧} - \text{拡張期血圧}) \div 3 + \text{拡張期血圧}$$

A

です。臨床では、計算ではなく、拡張期血圧の値をおさえていることをオススメします。例えば、拡張期血圧が 65mmHg 以上であれば、必ず平均血圧は 65mmHg 以上あることとなります。「低い方」を意識することで、リスク管理に役立てることができます。